

季節風

北海道医報購読料年間3,000円。北海道医師会員にあっては会費の中に含まれています。

内視鏡は季節風にリニューアルしました

白煙



情報広報部 羽田克己

平成15年5月15日人類滅亡と予告する女性を信奉し左翼過激派の電磁波（スカラー波）攻撃から身を守る為と、車、眼鏡、樹木、被服などあらゆるものに白をまとった奇怪な集団が出現した。

オウムに対した時と同じように、彼らの行く先々で町民は「出て行け！」コールを浴びせる。これはババぬきトランプ、地域エゴそのもので決して根本解決とならない。移動先の町が困惑するだけだ。国が法で退治するか信者一人一人が目を覚まし離脱するしかない。幸いというか案の定5月15日人類破滅はなかった。この手の予告で当たった例は聞いたことがない。よっぽど予言しない私の予感の方が当たると自負している。騙され易い人間を惑わす罪は大きい。発言の自由には責任を伴う。信者離脱の際、奉納品を返すばかりでなく迷惑料を支払う義務を負わせたらどうだろう。そのぐらいの手を打たないと明日がみえない自信喪失の現代、情緒不安定な民心につけこむ奇人変人悪人が雨後の筍のように次から次に現れる予感がする。それに1人の絶対統率者が意のままに全体を操り、集団は善悪の判断力をなくしたロボットのように命令どおり動くという構図はぞろぞろしい。トップが他人に迷惑をかけないという信念の持主ならまだ問題はないのだが…。こうした組織体はメンバー離脱の時、悪辣な仕置きをする。そんな国、暴力団、宗教団体の名前はすぐ浮んでくる。普段はおとなしく、いい人、だが思い込み

の激しい人間が家族も仕事も蓄財も放り出しのめり込む。心根には人類滅亡の時でも自分は助かりたいとの願い。その浅ましさが不幸を招く。地震の時でも逃げまどい却って死につながるがあるように、生と死はほとんど偶然的なこと、即ち運命的なことと思う。不可抗力な災害、悲劇に見舞われたら「仕方がない」「なるようにしかならない」と諦めることが肝心だ。あせったりあがくと結果は悪いことが多い。欲をだすとずるい人間につけこまれる事例は固有名詞はださないが、ここ数年に限っても沢山あった。人間は学習していない。

話が全く変わりますが、この4月から医業経営、福利厚生部から健康教育事業部担当となりました。前任の山本直也常任理事は、健康まつり、各種健康講話、道医学会館全面禁煙実施など、目にみえる形で数々の実績をあげました。我々担当部では近日、全理事会にも諮り道医禁煙宣言を發表しますが、健康日本と誇れる国をめざし、この運動をより強く推し進めたいと決意しています。最近のことですが、医師会関係の会議中、2、3人の医師が喫煙を始めました。昔から受動喫煙被害に神経質な私はこの行為に苛立ち、公的会議中及び引き続き開催される懇親会の禁煙を強く要求しました。愛煙家の医師から反対意見もなく（但し懇親会場外での喫煙は許可）理解と大多数の賛成を頂くことができました。私は若い頃から特異体質なのでしょう。タバコの煙、臭いが苦手で、咳、目や喉の痛みがあらわれる。帰宅後も服や髪にしみ込んだものでむせる。幸い近親者に喫煙するものが一人もいないことで今日まで生き延びられたというのは誇張でないと思う。

最後に道医学会の先生方に強力に禁煙を呼びかけたい。まずはご自身の健康のために。ひいてはそれが周りの人の健康のためになる。我々医師の行動が患者さんや子供たちの手本となるように愛煙ドクターももうタバコと決別しましょう。

禁煙は医療従事者と教育関係者に率先垂範してもらいたい。